

# 審判研修 道外派遣参加報告書

大会名 東日本選抜中学生バスケットボール大会	期間 2014年2月15日(土)～2月16日(日)
開催地 宮城県 仙台市	会場 東北生活文化大学高等学校 聖和学院高等学校 東北学院中学高等学校
参加者 高橋 優毅	所属地区名 札幌
講師 【会場主任】 佐賀 雄幸氏(宮城県) 高平 吉康氏(宮城県) 生駒 貴宏氏(宮城県) 齋藤 智広氏(宮城県)	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など なし	
実技研修、座学研修等の記録 なし	
実践実技1(実技の数によって増やす) 日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
2014年2月15日(土)	対戦カード 女子 宮城県 VS 山形県
副審 高橋 優毅	相手審判 宮城県 齋藤 智広氏(日本公認)
ゲーム前のカンファレンス内容 大会のファーストゲームということで、どちらのチームもどのようなスタイルのバスケットをしてくるか事前情報がなく、チーム事情を見極めることと、レフェリーズマニュアルを基本に二人で協力する点を確認した。また、どちらのチームも選抜チームということで、レベルの高い試合を展開することが予測されるので、本選を来月に控えいろいろと切磋琢磨しているチーム事情とアドバンテージの判定を頭に入れながら、ファウルにしてもバイオレーションの判定にしても、良いプレーとダメなプレーをしっかりと見極め判定することを確認した。個人的には、以上のことを頭に入れながら、最近の課題であるプレーに近づきすぎるポジション取りを改善することを課題とし、試合に臨んだ。	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 会場の主任はついてしたが、試合の審判主任が割り当てられていなかったため、試合後に相手審判と反省をした。ディフェンスのハンドワークや身体の寄せの判定について、ディフェンスの技術とスタイル的にファウルが少なくなる様子が見れなかったため、4ピリオド通してどのピリオドでも判定基準を変えずに、ファウルを吹き続ける必要があった。個人的な課題に関しては、トレイルの時はボールの移動と一緒に足を運び、ボールとその周辺を見ることができるとポジション取りができるようになってきた。しかし、リードに関しては特にブレイクの時にエンドラインに近づきすぎて、パスを出されたときに首を振ってしまい、プレーの始まりを確認することがあまりできなかった。	
ゲーム感想 道外派遣は3年前の全国YOC以来だったので、北海道以外で審判を出来る喜びと自分の力量を試すことができる興奮と緊張の精神状態で臨みました。周囲に知り合いがいないという環境やアクティブに他県のレフリーとコンタクトを取り、コミュニケーションをとってゲームに臨まなくてはならないという状況は、間違いなく自分にとってプラスになっていると感じました。レフェリングに関しては、北海道で取り組んでいることと普段自分が課題にしていることは間違っていないということを改めて認識し、よりよいものに変えていかなくてはならないことを感じました。特にスペーシングに関して、素早く動いてスペースを確認し、止まって見極める点、また、ただスペースをとらえるのではなく、プレーに近づきすぎないのか離れるべきなのか、少し角度をずらすなど、マニュアルの四原則の重要性を実感しました。	

実践実技1(実技の数によって増やす)

日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など

2014年2月16日(日)

対戦カード 女子 青森県 VS 山形県

主審 高橋 優毅

相手審判 秋田県 小林氏(県公認)

ゲーム前のカンファレンス内容

大会二日目ということもあり、両チームのスタイルと取り組もうとしている課題を確認。チームそれぞれに課題と試そうとしている内容を頭に入れ、邪魔にならないような判定を心がけながら、本選でアウトと判定されるであろうファウルやバイオレーションはしっかり取り上げること。初のペアなのでお互いのポジショニングや見ている場所を確認し、協力して試合を進めることを確認した。

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス

会場の主任はついてしたが、試合の審判主任が割り当てられていなかったため、試合後に相手審判と反省をした。ファウルに関しては二人で同じ判定基準を保つことができた。トラベリングに関して、ルールブックで再確認すること。どのタイミングで手からボールが離れたのか、どのタイミングでボールを保持したのかをしっかりと確認することと、それを確認できる位置取りをしなければならないことを確認し、ダブルドリブルに関して同じことが言えることを二人で再確認した。

ゲーム感想

道外に出て他県の優秀なプレイヤーたちが集まったチームの試合を主審として担当させていただけたことは大変貴重な経験となった。主審として、試合を進行するために目を向けなければならないことやプレイヤー・ベンチ・オフィシャル・観客を意識し、気を配ることの大切さを学びました。また、今回顔見知りがない環境の中で、相手レフリーと積極的にコミュニケーションをとることによって、ゲーム前のカンファレンスの重要性、ゲーム中の話し合いの重要性も感じました。試合の内容としては北海道のチームも含め、高校生や大学生に比べ体格・スピード・パワーが劣る分、ディフェンスの時に手や身体をぶつけて守ろうとするプレーと、ボールをキャッチする際のストップの技術が未熟な分、簡単にボールスティールされたりトラベリングをしてしまう、というプレーが目立ちました。正しい技術をプレイヤーに身に付けてもらうためにも、審判や指導者が正しい知識を身に付け、指導・判定をしていく必要があると感じました。

まとめ

今回初めて北海道選抜チームに帯同し、道外での審判活動を体験できたことは非常に良い経験となりました。その中で感じたことは、意欲と感謝です。本州の審判員の様子を見ると、他県へ行き審判をすることは割と普通のように感じました。我々、北海道民は他県へ行くためには船や飛行機といった手段を取らざるを得ず、他県へお邪魔するという経験はめったにできることではありません。そして、その切符を獲得しようと多くの審判員は競うはずですが、今回、その切符を獲得し他県で経験することができたことは、関係者全員に感謝の気持ちでいっぱいです。また、その切符を勝ち取ろうとする意欲は、北海道は特に熱く、今後も大切にしていかななくてはならないものであると感じました。同じように、北海道は面積が広いので他県では他の県に入ってしまうような移動距離でも、我々はあまり苦と感ずることなく移動し、審判活動に励む様子は高い意欲の賜物であると感じました。試合の様子をまとめた内容ではありませんでしたが、今後も積極的に審判活動につづき、意欲的に取り組むことを大切にしていきたいです。また、今回このような機会を与えていただいた、多くの関係者に感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。ありがとうございました。